

安全データシート (SDS)

作成日 : 2023年10月11日

1. 化学物質等および会社情報

化学物質等の名称	ポリフェニレンサルファイド樹脂
製品名	RS-1340S
会社名	株式会社 コテック
住所	大阪府堺市南区茶山台 3-21-15
担当部門/電話番号/FAX 番号	品質保証部/072-294-8711/072-294-8533
緊急連絡先/電話番号/FAX 番号	紀の川工場/0736-77-0771/0736-77-0775
推奨用途及び使用上の制限	熱可塑性の合成樹脂成型材料 ・食品包装材料、並びに医療器具に使用する用途については、使用される国それぞれに法律による制限や、業界による自主的な規制が存在します。本製品は、これらの規格を保証するものではありません。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

現時点において、分類対象外又は区分外である。

絵表示 : 該当しない

注意喚起語 : 該当しない

危険有害性情報 : 該当しない

3. 組成および成分情報

単一成分・混合物の区分 : 混合物

成分	含有量	CAS No.	化審法 No.
ポリフェニレンサルファイド樹脂	≧ 55.0%	26125-40-6	7-1143
衝撃改良剤	≦ 4.0%	非開示	非開示
ガラス繊維	40%	65997-17-3	該当なし
カーボンブラック	≦ 1.0%	1333-86-4	5-3328

主成分の化学式 : $[-C_6H_4S-]_n-$

4. 応急処置

皮膚に付着した場合、溶融樹脂が付着した場合は、直ちに水で冷やし、医師の手当てを受ける。
溶融樹脂からの発生ガスの凝縮物が付着した場合は、石鹼水でよく洗う。
目に入った場合、水道水などのきれいな水で、洗い流す。異常があれば、医師の手当てを受ける。
吸入した場合、溶融樹脂から発生するガスを吸いこんだ場合は、新鮮な空気のある場所に移動する。
異常があれば、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合、できるだけ吐き出し、異常があれば、医師の手当てを受ける。

5. 火災時の処置

消火剤：水、粉末消火剤、泡消火剤が使用できる。
火災時の措置に関する危険有害性：一酸化炭素などの有害ガスが発生する。
保護具：防火服、防火手袋、呼吸器具、ヘルメット等を着用して消火活動を行う。

6. 漏出時の処置

人体に関する注意事項：床にこぼれたペレットにより、転倒の恐れがあるので、床上から回収、清掃する。
保護具および緊急措置：保護メガネ、ゴム手袋、防塵マスク等を着用して処置する
環境に対する注意事項：排水系などに流出した場合は、沈降するので排水ピットで全量回収する。
回収・中和：知見なし。
封じ込め及び浄化方法・機材：知見なし。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い：常温では、引火の恐れは少ないが、火気をみだりに使用しない。
成形加工時は、発生するガスを吸入しないように、局所排気装置を加工機に設置する。
熱分解するので、成型機に高温で長時間滞留させない。
溶融樹脂により、火傷の恐れがあるので、溶融樹脂に触れないようにするとともに、溶融樹脂が飛び出し、火傷しないように、飛び出し保護設備を加工装置に設置する。
保管：直射日光の当たらない、発火源から離れ、乾燥した場所に保管すること。

8. 暴露防止および保護処置

管理濃度・許容濃度：未設定。ペレットであり粉塵飛散は想定していない。
暴露を軽減するための設備対策：成形加工時の熱により、樹脂が分解し、有害ガスが発生する可能性があり、成形加工機に局所排気装置を設ける。
溶融樹脂により、火傷の恐れがあるので、溶融樹脂に触れないようにするとともに、溶融樹脂が飛び出し、火傷しないように、飛び出し保護設備を加工装置に設置する。
適切な保護具：作業メガネ、耐熱手袋、長袖の作業着を着用する。

9. 物理的および化学的性質

形状	：ペレット	物理的状态	：固体
臭い	：なし	ガラス転移温度	：約 90°C
引火点	：知見なし。但し PPS は難燃性。 3) 4) 5)	分解温度	：500 °C 以上 3) 5)
融点	：約 280°C 3) 4) 5)	比重	：1.62 6)
溶媒に対する溶解性	：水及び有機溶剤に不溶 3)		

10. 安定性及び反応性

安定性 : 室温で安定

反応性 : 通常使用条件では反応性なし。

避けるべき材料 : 知見なし

有害分解生成物 : 一酸化炭素、SO₂、COS、炭化水素ガス (3) 8)

可燃性 : 酸素指数26以上であり、燃えにくい。

自己反応性 / 爆発性 : なし

11. 有害性情報

急性毒性 : 知見なし。ただし製品中に含まれる原料に対しては下記参考情報参照。

感作性および長期毒性 : 知見なし。ただし製品中に含まれる原料に対しては下記参考情報参照。

①PPS 急性毒性 : 経口 ラット LD50 : 23.1 kg/kg 以上

「参考情報」3) 7) 8)

経口 イヌ LD50 : 4 g/kg 以上

局所効果 : 皮膚、眼に対して僅かながら刺激性を示す。

②ガラス繊維

局所効果 : 直接接触時に、物理的刺激があるが毒性はない。

皮膚腐食性・刺激性 : データなし。物理的な刺激が発生することがある。

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : データなし。物理的な刺激が現れる可能性がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 知見なし

生殖細胞変異原性 : 知見なし

発がん性 : IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載なし。

生殖毒性 : 情報なし

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : 情報なし

特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : 情報なし

吸引性呼吸器有害性 : データなし

12. 環境影響情報

ポリマーのため、水生生物への有害性は少ないと推測される。

生態毒性 : データなし

残留性/分解性 : データなし

生物蓄積性 : データなし

壤中の移動度 : データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

埋め立てるときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、公認の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託してその処理をする。

焼却する場合は、焼却設備を用いて、大気汚染防止法等の諸法令に適合した処理を施して焼却する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当 (非危険物)

国連分類 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

空送を行う場合は、静電気災害防止対策をとる。

梱包が破れないように、水漏れや乱暴な取扱を避ける。もし、破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。

15. 適用法規

労働安全衛生法 : 既存化学物質

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当

船舶安全法 : 非該当

航空法 : 非該当

廃掃法 : 該当する (13項の廃棄上の注意を参照)

16. その他の情報

引用文献

- 1) 産業衛生学雑誌 Vol. 46 (2004 年度)
- 2) ACGIH, TLVs and BEIs Based on the Documentation of the Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents Biological Exposure Indices (2004)
- 3) Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed., Vol. 18 (1982)
- 4) 高分子素材便覧
- 5) 実用プラスチック事典 (1994)
- 6) 自社測定値
- 7) ガラス長繊維の人体に及ぼす影響 硝子繊維協会 (平成 5 年 3 月発刊)
- 8) 各原料の MSDS を引用。出典は非公開。